

## 身近な雑かん木 (6) ウコギ

NPO 法人自然観察大学 岩瀬 徹

ウコギの仲間はウコギ科の落葉低木で、平地や丘陵地の林縁や林内に普通に見られるものにオカウコギとヤマウコギがある。両種は似ていて区別がむずかしい。

オカウコギは高さ1~2m、茎が株立ちし主幹がはっきりしない。枝(長枝)が長くのびこれに小枝(短枝)がつく。樹皮ははじめ緑褐色のちに灰褐色、楕円形の皮目が散在する。長枝の葉痕の下に鋭いとげがある。葉は互生、短枝の先には数個が群がってつき、長枝にはまばらにつく。葉は掌状複葉で小葉は5個、縁には粗い鈍い鋸歯があり重鋸歯がまじる。葉面にはまばら毛があり、裏面の葉脈がやや突き出る。葉柄には小さいとげがまばらにつく。雌花と雄花は別の株につく。花期は5~6月、短枝の先に散形花序をつける。花は長い柄があり、がくはお椀

状で先は5裂、雄花の花弁と雄しべは5個、雌花は花弁5個、雌しべが1個。果実は球形で、夏に黒紫色に熟す。

ヤマウコギは主幹があり、高さ2~3mになる。長枝の葉痕の下に平たい鋭いとげがある。葉は掌状複葉で、小葉はオカウコギより大きく、鋸歯は低い。ほとんど無毛。裏面の葉脈は突き出ない。

食用にされるヒメウコギは中国原産で、山形県米沢市などで生け垣に栽培され一部野生化している。全体に小形で、小葉の縁に微細な鋸歯がある。日本では雌株だけといわれるがときに実ができる。

ウコギの名は、漢名五架をウコと読みそれに木をつけたものといわれる。



写真-1 オカウコギの若い枝、葉



写真-2 果実をつけたオカウコギ (7月)



写真-3 ヤマウコギの枝、葉



写真-4 街路に生け垣にされているヒメウコギ  
(米沢市)



写真-5 ヒメウコギの花 (6月)

# カヤツリグサ科入門図鑑

谷城 勝弘

A5変形判 定価2,940円(税込)

ごく普通に見られる約200種を取り上げ、大きな写真、  
ていねいな写真説明でわかりやすく解説します。

第1部 カヤツリグサ科の形

第2部 カヤツリグサ科200種

第3部 カヤツリグサ科の生える環境

第4部 標本でみるカヤツリグサ科

全国農村教育協会

〒110-0016 東京都台東区台東1-27-11  
TEL03-3839-9160 FAX03-3839-9172

<http://www.zennokyo.co.jp>